

## I. 神奈川県内 d. イベント記録堆積物 (8) 杉田貝塚貝層断面 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 29

標本名 杉田貝塚貝層断面 露頭剥ぎ取り標本

大きさ (分割枚数) 幅 2.57 m, 高さ 2.16 m (縦 2 枚、横 2 枚の 4 枚セット。左 1.26 m、右 1.31 m で、高さが各 1.08 m)

重量

左下: 77.6 kg

左上: 51.7 kg

右下: 80.6 kg

右上: 45.8 kg

形状・展示・収納状況 台に固定、大収蔵庫の平置きスペースにネステナーに入れて収蔵

採集地 横浜市磯子区杉田

緯度・経度 N35°22'52.7", E139°36'40.0"

標高 50 m (裏に 52.5 m 地点の記載あり)

露頭の種別と現状 発掘調査トレンチ、埋め戻し済

露頭面の向き、傾斜 向き不明、ほぼ垂直

堆積物の種別 貝塚

主要な化石類

主要な貝類: ハマガリ、他にアサリ、シオフキ、ツメタガイなど

主要な魚類: クロダイ、スズキ、コチ、マダイ、カツオ、ブリ、サバなど

主要な哺乳類: ニホンジカ、イノシシ、キツネ、ニホンザル、アシカなど

年代 縄文中期後葉～晩期前葉 (山田, 2001. およそ 4,000～2,500 年前)。ただし、晩期が含まれるのかについては疑問が呈されている (神奈川県立歴史博物館, 2008)。

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 大島光春

採集日 2001 年 4 月 18 日

関連文献等

松下胤信, 1930. 武蔵大岡、帷子両溪谷に於ける二三の貝塚. 人類学雑誌 (東京人類学会), 45(12): 472-475.

山田仁和, 2001. 横浜市磯子区杉田貝塚. 第 25 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨, 31-36.

神奈川県立歴史博物館, 2008. 神奈川県貝塚地名表. 神奈川県立歴史博物館総合研究. 89pp.

解説 杉田貝塚は松下 (1930) によって報告されてから、早稲田大学 (1949, 1956)、明治大学 (1950, 1957) などによって調査が行われている (神奈川県立歴史博物館, 2008) が、詳しい調査報告書はない。2000 年に宅地造成のため、文化財保護法に基づく埋蔵文化財調査が民間調査会社 (盤古堂) によって行われた。これにより、貝塚の貝層部分の厚さが約 3 メートルで、長期にわたって使われたことが推定でき、魚類や哺乳類の動物遺存体も良好な保存状態であることが確認された。民有地で現地保存が不可能であり、神奈川考古財団、県立歴史博物館、市立歴

史博物館のいずれも標本化の意思がないことが確認されたので、2001 年に当館で剥ぎ取り標本を製作することになった。

図の層区分や時代区分の推定は山田 (2001) に従った。神奈川県立歴史博物館 (2008) では、縄文晩期の貝層の存在は疑問とされている。

記録者 大島光春

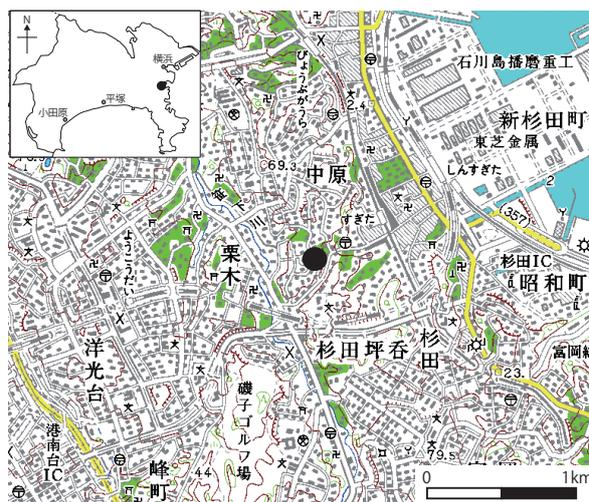


図 1d-8-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1d-8-2. 剥ぎ取り標本の露頭 (上) と採集の様子 (下)。

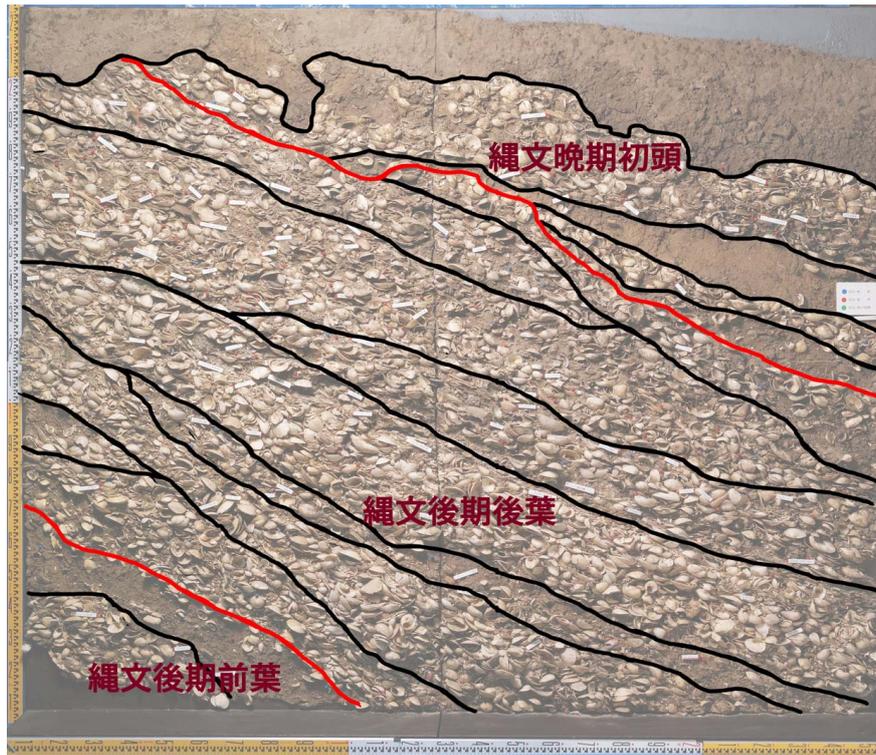


図 Id-8-3. 剥ぎ取り標本の写真(下)と時代区分(上, 山田(2001))をもとに大島作図.